

会計期間を変更する場合はどうすればよいか。

< 勘定奉行21シリーズ全般 >

会社の合併等により、12月決算が3月決算に変更になるなど、変更後の会計期間が一年未満になる場合について、会計期間を変更する際の処理手順をご説明します。

【例】	変更前		変更後
第10期	平成22年1月1日 ~ 平成22年12月31日	➔	第11期 23年1月1日 ~ 23年3月31日
			第12期 23年4月1日 ~ 24年3月31日

■ 【第10期】の対応

※ 22年12月31日までのすべての仕訳(決算整理仕訳を含む)を入力し終えた時点で、以下の処理を行います。

- ① 念のため、[随時処理] - [データコピー処理] メニューにて、バックアップデータを作成します。
- ② [随時処理] - [翌年度更新処理] を実行します。

■ 【第11期】の対応



勘定奉行では、会計期間は1年間として登録します。第11期のように、会計期間を3ヶ月で処理する場合は、会計期間は変更せずに、運用します。

- ① [機能] - [会社選択] メニューで、第11期の会社を選択します。

[日常の処理]

② 仕訳入力について

通常仕訳: 通常通りに、1月~3月に登録します。

決算整理仕訳: 決算整理月の仕訳を通常月とは分けて運用している場合は、今回のような3ヶ月の会計期間の場合、3月の伝票日付で<決算仕>ボタンを押すことができません。よって、以下のいずれかのパターンで、処理を行います。

- A. 12月の伝票日付で<決算仕>を押し、決算整理月に登録します。
- B. 4月の伝票日付で登録し、その月を決算月として運用します。

③ 管理資料について

決算整理月の仕訳を通常月とは分けて運用している場合、管理資料の集計で決算月を含めて、金額集計するには、決算整理仕訳の登録パターンによって、月次指定・日付指定の処理が変わります。

- A. 1月から決算整理月までを選択します。
- B. 1月から4月までを選択します。

[決算の処理]

- ④ 決算報告書を出力する際には、印刷する会計期間が、23年1月1日～ **23年3月31日**と表示されるように設定します。

[日常処理1] - [決算報告書] - [決算報告書] メニューを選択します。

- ① <会社情報…> ボタンを押します。[決算報告書 会社情報] ダイアログにおいて、会計期間の期末年月日を、以下のように修正します。



The screenshot shows the '決算報告書 会社情報' dialog box. The '当期会計期間' (Current Accounting Period) is set to '23年 1月 1日 ~ 23年 3月 31日'. The '前期会計期間' (Previous Accounting Period) is set to '22年 12月 31日 現在'. The '決算期' (Fiscal Year) is set to '第 11 期'. The '会社名' (Company Name) is '〇ＢＣ商事 株式会社'. The '住所 1' (Address 1) is '東京都新宿区西新宿6丁目8番地1号'. The '住所 2' (Address 2) is '住友不動産新宿オークタワー'. The 'OK' button is highlighted with a red box.

- ② <印刷条件…> ボタンを押します。[決算報告書 印刷条件] ダイアログにおいて、[会計期間の出力内容] は、「会計期間」を選択します。

The screenshot shows the '決算報告書 印刷条件' dialog box. The '基本設定' (Basic Settings) tab is selected. The '表紙' (Cover) section has '印刷する' (Print) selected. The '集計対象の印刷' (Print of Consolidation Targets) section has '印刷しない' (Do not print) selected. The 'コード' (Code) section has '印刷しない' (Do not print) selected. The '金額〇の科目' (Amount 0科目) section has '印刷しない' (Do not print) selected. The '構成比' (Composition Ratio) section has '印刷しない' (Do not print) selected. The '会計期間の出力内容' (Output Content of Accounting Period) section has '会計期間' (Accounting Period) selected. The '単位選択' (Unit Selection) section has '円' (Yen) selected. The '端数処理' (Rounding) section has '切り捨て' (Round down) selected. The '総勘定科目の要約' (Summary of Consolidated Accounts) section has 'しない' (Do not) selected. The 'OK' button is highlighted with a red box.

- ⑤ 23年3月末に、「翌年度更新処理」を実行します。

注意

第11期が確定後に、翌年度更新処理を行うことをお奨めします。

【第12期】の対応

- ① [機能] - [会社選択] メニューで、第12期の会社を選択します。
- ② [導入処理] - [会社情報登録] メニューにて、会計期間を以下のように変更し、〈登録〉 ボタンを押します。

24年1月1日 ~ 24年12月31日  23年4月1日 ~ 24年3月31日

入力開始月は、4月のままにします。

注意

会計期間を変更したことにより、繰越残高調整機能を使用することができなくなります。会計期間変更後(例では、第12期)の会社データにおいて、開始残高の修正が必要な場合には、[導入処理] - [科目残高登録] の各メニューにて、手入力で修正します。

よって、第11期が確定後に、翌年度更新処理を行うことをお奨めします。

注意

以下の処理は、過去データと比較する帳票(二期間比較や前年同月対比表など)を参照する場合のみ、行います。

会計期間変更後(例では、第12期)の会社データにおいて、[分析処理] - [過去データ入力] の各メニューにて、月次の過去データを、以下のように登録する必要があります。

※以下の図は、[過去データ入力] メニューにおける、月次の過去データの入力イメージです。

〈決算期**第12期**での処理〉

会計期間 修正前 24年1月1日~24年12月31日の
過去データ(前期分)

23年 1月	23年 2月	23年 3月					23年 12月
-----------	-----------	-----------	--	--	--	--	------------

9か月分ずらして再登録します。

会計期間 修正後 23年4月1日~24年3月31日の
過去データ(前期分)

22年 4月			22年 12月	23年 1月	23年 2月	23年 3月
-----------	--	--	------------	-----------	-----------	-----------

前9か月分は、ご自分で登録します。

※なお、必要に応じて、年次の過去データも入力します。